

# 牛久：学校周辺に見る自然

第1号 向台小学校

2017年4月25日発行

## ＜ 春の校庭で生きもの観察 ～①花に来る虫たち＞

久しぶりです。今回は、4月中下旬に向台小3年生と観察した、花とそこに来る虫たちを紹介いたします。



カラシナ(左)とその花(右上)、みつを吸うハチ(右下)。



ビオトープの近くで、(セイヨウ)カラシナの花が咲いていました。アブラナに似ていますが、葉のつき方や花の形などがちがいます。甘いかおりにさそわれて、ハチやチョウがみつを吸っていました。まわりでは親せきのナズナが白い小さな花をたくさん咲かせ、ハナアブの仲間がみつや花粉をなめていました。



ナズナ(左)と、そのみつや花粉をなめるナミホシヒラタアブ(右)。



ノゲシ(左)と、そのみつを吸<sup>す</sup>うハチ(右)。

ノゲシも、校舎のふちやまんまる池のまわりに咲<sup>さ</sup>いていました。小さなハチが口先をのぼし、みつを吸<sup>す</sup>っていました。校庭内を歩くと、これと似てヨーロッパからやってきたオニノゲシや、それとの中間のアイノゲシも見られます。オニノゲシの葉のトゲは、つかもうとすると痛<sup>いた</sup>いです。そつとにぎって、さがしてみましよう。



セイヨウタンポポ(左上)とみつを吸<sup>す</sup>うハチ(右上)、みつや花粉をなめるシマハナアブ(左下)、根もとにかくれるヒシバツタ(右下)。

こちら黄色い花で、つくりもノゲシとよく似<sup>に</sup>ていますね。同じ「キク科」とよばれるグループに仲間分けされます。ハチやハナアブの仲間が、みつや花粉<sup>かふん</sup>を求めてやって来ていました。ところでハナアブとハチはパツと見てよく似<sup>に</sup>ていますが、ハナアブはハエに近い仲間<sup>なかま</sup>でハチとはずいぶん大きな違<sup>ちが</sup>いがあります。どこが違<sup>ちが</sup>うでしょう？ 根もとには、ヒシバツタ<sup>ちが</sup>がいました。小さいけれどこれでも大人<sup>おとな</sup>。



こちらは青い小さな花、オオイヌノフグリ。左の写<sup>しゃしん</sup>真を見ると、その左上にもっと小さな似た花がありますね。こちらはタチイヌノフグリ。どちらもヨーロッパからやってきた、日本にはもともととなかった植<sup>しょくぶつ</sup>物です。この花にもミツバチやハナアブの仲間など、いろいろ<sup>な</sup>な昆<sup>こんちゆう</sup>虫がみつや花粉<sup>かふん</sup>を求めてやっ<sup>も</sup>て来<sup>き</sup>ます。この日はビロードツリアブというアブと、ハナアブの仲間<sup>な</sup>でナミホシヒラタアブ、シジミチョウの仲間<sup>な</sup>でベニシジミとルリシジミが来ていました。ビロードツリアブの成<sup>せい</sup>虫は春にしかあらわれず、幼<sup>ようちゆう</sup>虫はヒメハナバチの幼<sup>ようちゆう</sup>虫やさなぎに寄<sup>き</sup>生<sup>せい</sup>するそうです。

ルリシジミは、もうすぐ咲<sup>さ</sup>きだしそうなフジなどでも見<sup>み</sup>られました。教科書のヤマトシジミはパツと見<sup>み</sup>ると似<sup>に</sup>ていますが、羽<sup>はね</sup>のもようや目の色<sup>ちが</sup>などが違<sup>ちが</sup>います。くらべてみましょう。

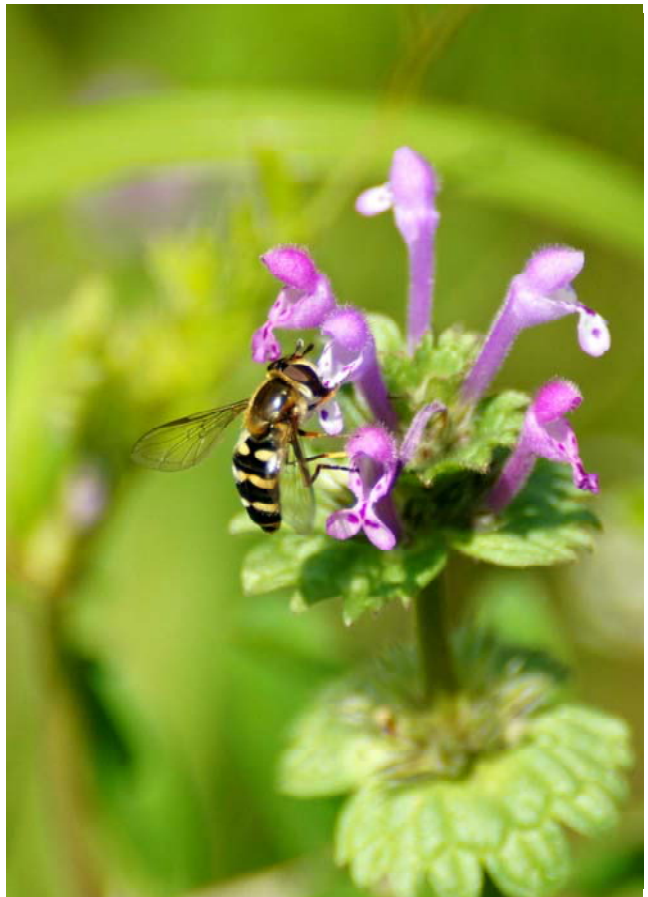
← オオイヌノフグリとタチイヌノフグリ。どちらもヨーロッパから来た。



オオイヌノフグリのみつ<sup>みつ</sup>や花粉<sup>かふん</sup>をなめるビロードツリアブ(上2枚)とナミホシヒラタアブ(左下)、みつ<sup>みつ</sup>を吸<sup>す</sup>いに来たベニシジミ(右下)。

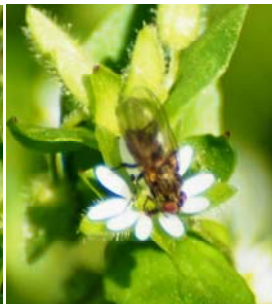


咲<sup>さ</sup>きだしそうなフジにとまるルリシジミ(左)。土<sup>つち</sup>上<sup>かみ</sup>にも(右)。



シソ科の仲間、ホトケノザ(左上)と、そのみつや花粉をなめるナミホシヒラタアブ(右)。  
同じシソ科の仲間、ヒメオドリコソウにきたハチ(左下)。

次はむらさき色の花、ホトケノザ。変わった形の花ですが、この仲間はどれもこんな花、ハーブのミントなども同じ仲間です。茎が四角いことや、葉をもむと匂いがあることなども共通の持ちょうですね。仲間のヒメオドリコソウとともに、ハチやハナアブの仲間がよく来ます。



コハコベ(左)と、そのみつや花粉をなめるハエ(右)。

最後に白い花でコハコベ。仲間のオランダミナグサとともに、ハエやハナアブの仲間がよくみつや花粉をなめにきます。

おまけに、それらの虫たちを待ちぶせて食べるクモの仲間。クモはあみをはるものばかりではないのです。【理科支援員：宮内】



花や葉のかけで、えものを待ちぶせるネコハエトリ(左)、コハナグモ(中)、コモリグモ(右)。